知ることが第一歩

８月 15 日は、終戦記念日です。忘れてはいけない夏が、今年もやってきました
今から 77 年前、広島（８月６日）と長崎（８月９日）に、恐ろしい原子爆弾が投下されました。
多くの人の命が犠牲になった戦争の惨禍を二度と繰り返さないために、戦争の記憶を風化させることのないよう、あらためて戦争の悲惨さと平和の大切さについて考えてみましょう。

問い合わせ　人権・男女共生課　☎ 38-2055

子どもの目からみた戦争

今回インタビューをした宮本さんは、芦屋で生まれ育ち幼少期に戦争を体験しました。現在は、語り部として芦屋市での戦争体験を子どもたちに伝える活動をしています。当時小学生だった子どもの視点から戦争の体験を聞きました。

語り部としての一歩

私が語り部として活動するきっかけは趣味として、エッセイを書いたり仲間で手作りの冊子を作っていく中で、「空襲の記憶」という戦争体験の文書が市役所の人の目に止まったからです。そこから、平和や戦争について学びたいという甲南高校の生徒と文通をしたり、岩園小学校で平和教育の話をすることになりました。学校からの感想文には「戦争があったという事を僕も伝えていきたい」と書いてあったのを見て話をして良かったと思いました。

勉強ができない学校

昭和 16 年 12 月に真珠湾攻撃で戦闘状態に入ったことを何度もラジオで聞き、子ども心に戦争が始まったと思いましたが、戦争がどういうものかその時は分かりませんでした。戦闘状態に入ったという放送から、食べ物が段々となくなり貧しくなっていきました。
戦時中は、西芦屋町に住んでおり昭和 17 年４月に山手国民学校へ入学しました。隣の月若町は、焼夷弾が落ちて焼けてしまったという記憶があります。
学校では勉強をするのではなく、逃げる練習や爆弾が落ちたら鼓膜が破れたり目がつぶれるため、一・二・三で耳や目を押さえる練習もしました。
戦時中に覚えている辛い思い出があります。学校の先生が生徒に家で横文字の物があれば親に言って捨てるよう言われました。父は趣味でカメラ雑誌やレコードを持っていたので私は捨ててくれと頼みました。父は「何というばかなことを言うんだ。」と言い、私は捨てないと先生に叱られるとワーワー泣きました。すると親が当時よく聴いていたレコードを持ってきて「これでいいんか !!」と言ってパーンとレコードを割った姿が今でも目に浮かびます。その後、父が私の大事にしていたセルロイド人形のメリーちゃんを持ってきて「今度はメリーちゃんの番だ。これも敵国の人形だよ。どうする？」と言いました。私は「助けて、助けて。」と泣き続けると、父は「このメリーちゃんという名前がいかん。名前を変えよう。」と“すみれちゃん”に変えてくれました。そんなバカげた時代の瞬間を子どもながらによく覚えています。

昭和17年山手国民学校入学

昭和16年愛児の園幼稚園運動会

芦屋のまちにも

５月 11 日に阪急芦屋川駅のすぐ北側で 250 kgの大型爆弾が落とされ、町の真ん中に大きな穴が開きました。空襲警報で走って家に帰ると、稲光のような光とともにガラスが飛び散りました。その爆弾で私のお友達の妹さん２人が亡くなりました。それが初めての爆撃の印象でした。また、三条南町の外科医院へ血まみれの人々が戸板に乗せられて運ばれて行くのを怖い思いで見ていました。
６月にも空襲がありましたが８月の空襲が一番ひどかったです。原爆の落ちた日です。６日未明、夜が明けきらなかった頃に小型爆弾と焼夷弾が落ち、ボロボロになりながらも家は焼けずに建っていましたが無数の爆弾の破片が突き刺さっていました。小型爆弾は、破裂するとたくさんの破片が飛びます。地面に落ち爆弾が破裂し、防空壕からふっと顔を出した隣のおばさんの首に爆弾の破片が刺さったこともありました。
当時は小学校での集団疎開や子どもだけで疎開をする縁故疎開が見られました。私は田舎の親戚の所へ１人で疎開する用意をしていましたが「私ら親が死んだら子ども１人でどないするの？死ぬときは一緒」という考えで疎開をやめました。周りの友達はどんどん疎開していくため日に日にいなくなりました。

国民学校１年生叔母と

これからの日本

ウクライナ侵攻や民族紛争など難しい問題ですが、今世界中に原爆が２万発もあるんです。原爆を持っていたら抑止力になるというのがそもそもおかしいと思います。ウクライナの現状は、毎日テレビで見ることができます。77 年前に同じことが日本でもあったんです。東京では、一晩で 10 万人が死にました。たとえ戦勝国になったとしても、兵士をたくさん死なせて犠牲を払っています。戦争ほど愚かなものはありません。戦争は不幸しかもたらしません。若い人達が「戦争は絶対してはいけない」と思い続け、言い続けることしかないと思います。あとは夢物語かもしれませんが、世界中が「せーの！」で軍隊と兵器を捨てること。日本は原爆を受けた側としてもっと強く言っていかないとだめですね。